宝物はすぐそばに

校内研通信
第9号　　R7.8.22
発行者:校内研担当　仲村智

8 月 22 日（金）にこどもセンター「ゆいまわる」の仲間知穂様を講師に招き、「生徒理解を通して社会性を育む」というテーマで職員対象の研修を行いました。実際に先生方が日々の授業や学級経営をしていくなかで、起こり得る事例（モデルケース）を基にしたワークショップ（課題解決）型の事例検討を実践していきました。特に、スマホなどがこどもたちにも普及して体験活動が極端に減ってきているなか、自分の存在認知ができない生徒は増えていく傾向にあります。本日取り扱ったモデルも決して特別な存在ではなく、でも先生方一人でその対応等を抱えてしまって疲弊してしまうという話もよく聞きます。先生方もベテラン・若手、スキルや経験値も多種多様でその教育方法も人それぞれだと思います。でも、情報共有し課題解決のために知恵を出し合う場を作ることで、同じベクトルで素晴らしいイデアが生まれていくとを実感できた研修になったことでしょう。

「チーム南風原」、生徒の成長を願う思いは皆同じです！！

対話的授業デザインワーク
-KJ法を活用-

付箋でアイデアを整理・構造化する実践法

ステップ1：アイデアを書き出す

- 届けたい教育の叶え方を考える
  自由に意見を出し合う
- 1付箋1アイデア
  簡潔に記入する
- 量を重視
  批判・評価は一切しない

ステップ2：グルーピング

1. 模造紙に付箋を貼り出す
2. 似たものを直感で集める
3. 対話を楽しむ
   「これは〇〇を大事にしているね」
4. 感覚を大切に、自由に動かす

ステップ3：作戦名をつける

- 共通点やテーマから作戦名を考えよう
  例：
  「安心して発言させちゃう作戦」
  「ピリッとキリッと成功体験作戦」

ちょこっと豆知識
主に付箋等を使って
それらを並べ変えたり
グルーピングしたり
することで断片的な情
報・アイデアを効率的
に整理する目的で用
いられるKJ法。
その名の由来は、創始
者の文化人類学者の
イニシャルらしい。本来
なら「川喜田二郎法」
今のままでいいか・・・

川喜田二郎
1920～2009